**ハンドマイク街頭演説原稿例　　　通常国会開会にあたって**

　　二〇二一年一月二十一日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、年明けから新型コロナの爆発的な感染拡大が止まりません。政府による緊急事態宣言の対象も１１都府県に広がっています。埼玉県内でも一週間の新規感染者が３００人を突破するなどきわめて深刻な状況です。専門家の警鐘を無視してＧＯＴＯ事業に固執し、感染対策で無為無策と逆行を続けてきた菅自公政権の責任は極めて重大です。

にもかかわらず、菅政権は、時短要請や入院勧告に従わない場合に罰則や制裁を導入しようとしています。強制をもって従わせるやり方は、国民の相互監視、差別と偏見、社会の分断を招き、感染抑止に逆行するものと言わなければなりません。国民の納得と合意、十分な補償によってこそ、感染症対策は進められるべきです。日本共産党は、コロナ対応の特別措置法や感染症法の改定に断固反対し、法案の撤回・廃案を強く求めていきます。事業者の規模に応じた十分な補償を国が実施するよう、国民と力をあわせてがんばります。

みなさん、コロナ収束のためには、何よりも、感染を知らずに広げている無症状者を把握し、保護することを検査戦略の中心にすえるべきです。日本共産党は、ＰＣＲ等の検査を抜本的に拡充し、無症状者を含めた感染者を把握・保護することによって、新規感染者を減らすことを強く求めていきます。医療崩壊の危機に直面する医療機関への減収補てんをただちに行うとともに、年末年始も休みなく働いている医療従事者に「特別手当」を国が支給するよう引き続き力をつくします。

みなさん、日本共産党埼玉県委員会は、ネット上で回答できる「新型コロナ緊急県民アンケート」を実施しています。アンケートには、「退職予定だが、就職先が見つからない」「給料が減り生活が大変です」「早く２回目の給付金が生活に必要です」など切実な声がたくさん寄せられています。コロナ禍による雇用悪化と緊急事態宣言のもと、公的な直接支援はまったなしです。日本共産党は、持続化給付金や家賃支援金の継続・拡充、第２弾の実施を引き続き求めます。生活困窮者や低所得者に新たな給付金を支給するよう政府に強く働きかけていきます。

みなさん、前国会で未解決のまま引き継がれた「桜を見る会」をはじめとした「政治とカネ」の問題、学術会議の任命拒否問題。日本共産党は、今国会でも決して手を緩めることなく、厳しく追及していきます。コロナ対策を進めるうえで、何よりも大切なことは、政治への信頼、とりわけ政治リーダーに対する信頼です。政治の信頼を回復するうえでも、一連の疑惑の徹底究明、違憲・違法の任命拒否を撤回するまで力を尽くしていきます。

最後に、「桜を見る会」問題など、スクープ連発の「しんぶん赤旗」が、いまメディアでも広く注目されています。この機会に「しんぶん赤旗」をぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしてのうったえを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）